

論の妥当性を評価することは難しくなる。また、将来の現業モデルにエーロゾルの物理過程が組み込まれる場合にも、良質で全球的な観測が必要となる。今回のワークショップでも航空機観測や地上観測など様々な観測データを集めていたが、まだモデルとの時間・空間的な差は大きいように感じられた。将来は人工衛星・レーダー等のリモートセンシング技術を用いた観測が行われるよう期待したい。

次に2章の講演でも触れたが、今後は、気候変動をより詳しく知るために、様々な分野の知識が必要となるだろう。特にエーロゾルについては、発生・消失過程に生物学・化学等の知識が必須である。これらの研究を単独でおこなうのは難しいので、今回のワークショップのように専門家が交流できる機会を増やしていくべきだと思う。

最後にこれは個人的な感想であるが、自分のテーマを取り扱ったワークショップにはできるだけ積極的に

出席するべきだと思う。海外の論文に目を通すだけでももちろん知識を得ることは可能であるが、実際に話を聞くとよりインパクトが大きいように感じられる。また、情報を収集するするだけでなく、逆に発表できるだけの材料が整えば、積極的に情報を発信していくことも必要となるだろう（筆者の場合、そのためには語学力強化が前提条件であろう）。

謝 辞

このワークショップの開催の中心的人物となったRasch, Law 氏を始めとするスタッフに感謝します。また、このワークショップの出席にあたり様々な支援をしていただいた数値予報課の皆様にも御礼を申し上げます。最後になりましたが、このワークショップの出席にあたり気象学会国際学術交流基金より旅費を援助していただきました。ここに記して感謝の意を表します。

====支部だより====

北海道支部第14回夏季大学開講のお知らせ

— 気象講座「新しい気象学」—

日 時 平成8年7月31日(水)、8月1日(木)

午前10時～午後4時

場 所 札幌市青少年科学館(第1日目)

(JR・地下鉄「新札幌駅」下車)

札幌管区気象台(第2日目)

(地下鉄「18丁目駅」下車)

参加費 600円

対象・定員 一般(高校生以上)・60人

申込方法 往復はがきに講座名「新しい気象(朱書)」・住所・氏名・年齢・勤務先等・電話番号、返信宛名を明記し、お申し込み下さい。但

し、申込み多数時は抽選とします。

申込先 〒004 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目

札幌市青少年科学館展示係

TEL 011-892-5001

申込締切 平成8年7月19日(金)

教科内容 「'96年冬の豪雪」ほか3講予定

問合せ先 日本気象学会北海道支部

TEL 011-611-6121 (内415)

〒060 札幌市中央区北2条西18丁目

札幌管区気象台調査課